



努力不足？ いえいえ、あなたは悪くない

「高校生にもなって、親が学校に電話をするなんて、気が引けます。」

電話相談の受話器の向こう側で、お母さんが言われました。最近、学校に行きにくい高校1年のAさんは、「授業がしんどい」と訴えているそうです。

確かに、自分が高校生だった頃（…「昭和」です…）のことを思い出すと、親が子どもの相談で高校に電話をしていたという経験がある人は少ないように思います。（学校からの電話で『呼び出し』をされることは、あったかもしれませんが…(汗)）

「高校は義務教育ではないのだから、行けなくなったら辞めるしかない。」という、あきらめの声も聞きます。

でも、ちょっと待ってください。困った状況になったときこそ、保護者の方と先生と一緒に、その子のことを考えていけるチャンスなのです。

人は誰でも、得意なことと不得意なことがあります。ところが、この差がとっても大きかったり、一部のことだけが、なぜだかどうしようもなく苦手だったりすることがあるのです（私にも思いあたるのがいくつも…(笑)）。不登校の相談に来られる方の中には、「他の子は、みんな普通にできているのに…」と周り比べてしまい、悩んでいる方がけっこうたくさんおられます。

例えば、Aさんは、試験の点数はそこそこ取れるけれど、板書をノートに写すのにすごく時間がかかります。また、グループの中で意見を求められると何を言ったらいいかわからなくなって、授業がしんどく感じていました。

本人は困っているけれど、試験の成績が良いので、まわりの大人は、「何でできないの？」と本人の努力不足のように捉えてしまいます。そう捉えられると本人も、「他の子はできているのだから、自分もできなくちゃ」と思い、焦ってしまいます。けれど、やっぱりできないから、「できない自分が悪いんだ」と、さらに苦しくなってしまいます。

でも、それって視力の弱い子に、「あなたの努力が足りないから見えないのよ。周りの子は見えているでしょ。もっとがんばって見なさい。」と言っているようなものなのです。視力が弱い場合は、迷いなく眼鏡をかけますよね。弱い視力を努力不足のように言うことはないはずですよ。

もちろん、学校に行けない時の要因は、もっと複雑なことが多いです。ただ、もし、先に挙げたような例があてはまりそうな場合は、学校と協力して対応を考えることができます。ちょっとした工夫や配慮をしてもらうことで、改善が見られることがあるのです。就職してから困っている状況が見つかるよりは、学校にいる時期に見つかる方が、その後の生活ですっと助かります。

学校に行けないことは、本人にとっても、保護者の方にとっても、苦しいことです。でも、それは、「今までのやり方では、この先には進めない。」という子どもからのサインかもしれません。学校に籍がある間は、多くの人の助けを得られます。一度立ち止まって、「じゃあ、これからは、どうしていいのかな」を、本人と周りの大人と一緒に考えてみませんか!? 子ども達の長い人生を、より一層輝かしいものにするためにも!!



～ この「ココロさんのひとりごと」では、お子さまの不登校や行きしぶり等を考えるとき、ちょっと今までとは違う見方ができるような話題を、センターのカウンセラー達がお伝えしていきます。ご期待ください～